

【活動の主題】 図書室の活用による居場所づくりと不登校対策

【学校名】 彦根市立中央中学校

1 本校の概要

全校生徒 435 名の中規模校で創立して 43 年が経つ。校舎は学年ごとにフロアが分かれており、まっすぐな狭い廊下に沿って教室が並んでいる。オープンスペースはなく、昼休みに広々と過ごせる空間の 1 つが図書室である。本を読みたい生徒も静かに過ごしたい生徒も、広い空間を求めてやってくる。また、校内教育支援教室を利用する生徒も登校時に図書室で過ごせるように工夫している。貴重な登校の時間を、人目を避けた狭い部屋ではなく、ゆったりとくつろげる場所で過ごしてもらいたいからである。本校では、誰一人取り残すことなく図書室が 1 つの居場所になることを目指している。

2 取り組んだ内容

(1) 全校生徒対象の昼休みの図書室利用

生徒会活動の一環として図書委員会による「読みたい本のアンケート」を実施し、生徒が興味をもっている本を購入した。入り口付近に新しい本ばかりを並べて紹介し、生徒が手に取りやすいようにした。

(2) 不登校傾向の生徒対象の図書室利用

①校内教育支援教室を図書室に設置

教室から離れている場所で、校舎に入る出入口や近くにトイレがある場所であることはもちろんのこと、その広さから、利用者が何人かいても距離がとれるので心理的負担が少なくてすむことがねらいである。昼休みは、図書委員や他の生徒が来室するため、校内教育支援教室を利用する生徒は、隣の日本語教室の部屋に移動して過ごした。学校には行きたいが教室に入れない生徒のために、図書室が担う役割は大きい。

②読んでみたい本の選択

校内教育支援教室で過ごす際の活動の 1 つが読書である。1 人 1 台学習者用端末を使って読みたい 1 冊を選んでもらい、その本を購入した。

③放課後登校をする生徒への本の貸出

他の生徒が完全下校した後の放課後登校の際、少しでも学校での滞在時間を延ばせるように、図書室へ誘

導した。家での読書を勧めるのと同時に、昼間に学校に来るときは校内教育支援教室である図書室で過ごすことができることを紹介することがねらいである。

(3) 職員室前での本の紹介

生徒会主催の不要になった子ども服を回収する「服のチカラプロジェクト」の一環として、SGDs に関連する本を購入して職員室前に並べ、いつでもすぐ手に取って見られるようにした。



3 活動の成果

図書委員会では、活動が充実しただけでなく、次回も図書委員になりたいと希望する生徒も多かった。

校内教育支援教室では、基本的に自学自習であるが、学習するまでのパワーがない生徒もいる。そんな時、ふと本を手にする場面が何度もあった。順番通りに並べ替えてみたり次第にじっくり読みだしたりすることもあり、校内教育支援教室で自分が何をするか意思決定する際に、近くに本がたくさんあることは大変有効であった。また、読んでみたい本の選択では、その生徒の興味関心を把握することができ、アセスメントやプランニングにも有効であった。今年度は合計 14 名が校内教育支援教室を利用し、最大 6 名が一緒に過ごすことがあった。本人の意欲や保護者の支えのおかげではあるが、広い空間や魅力ある本が並ぶ図書室の効果でもあったと考える。

職員室前の本の紹介では、普段あまり図書室を訪れない生徒にとっても本に触れられる機会となり、多くの生徒の目に留まり、借りてみたいと希望する生徒もあった。